



小山高同窓会報

第4号

2021年3月1日

発行

小山高等学校同窓会

印刷 大星印刷(株)

同窓会長挨拶



同窓会会長
船渡川 進

日頃より会員の皆様には同窓会に対しまして、ひとかたならぬ御協力並びに御支援を賜りまして誠にありがとうございます。同窓会報第四号をお届けするに当たり一言ご挨拶申し上げます。新型コロナウイルス感染が一向に収束の兆しを見せない中ではありますが、会員の皆様におかれましては健やかにお過ごしのことと存じます。本校も創立百周年を盛大に祝い、新たな百年に向かって、しっかりと第一歩を踏み出すはずでしたが、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルスの卒業式と二〇二〇年度の入学式も最小限の関係者が参列する式となり、更に毎年恒例の同窓会総会（五月第三土曜日）も中止とさせて頂いていただきました。楽しみにしておられた方は残念

だったかと存じますが、次回を楽しみにお願い合わせの上ご出席下さい。同窓会の理事会につきましては決議事項が多くありましたので、感染予防対策を十分に配慮して予定通り実施することができました。

また、創立百周年記念事業に当たりましては、多くの方々から多大な御寄付を頂き、改めてお礼申し上げます。皆様からお寄せいただいた御寄付を長く伝えていくために、御寄付いただいた方々の御芳名並びに金額、協賛して下さった企業の御名前を冊子にまとめ、同窓会資料室に永久保存することにしたしました。

また新しい試みとして「十年期同窓会」を開催することにしたしまして、今年で2年目になります。卒業後十年を期に同窓会の総会当日合同のクラス会を開き、その後同窓会総会にも出席して、旧交を温めるとともに貴重な情報交換の場となっております。普段は母校に足を運ぶ機会が少ないかと存じますが、是非この行事をきっかけとして、昔に戻り母校で思い出を語り合うとともに、同窓会へのご意見などをお聞かせください。



ただければ幸いです。



同窓会報につきましては、卒業後遠方へ行かれた方々から会報を楽しみにしているというお話を伺いました。遠方の方も是非さまざまな思いをご寄稿いただきたいと思っております。同窓会の活動をお知らせする試みの一つとして、小山高等学校のホームページ内に同窓会のコーナーを設けましたので是非ご覧下さい。また、全国各地で支部会が開催されていると伺っておりますが、そうした集まりをお持ちの際は、その様子をお知らせいただければと思います。十年くらい前まで京浜地区にも支部がございましたが、立ち消えになってしまったようでございます。何か情報がございましたら、小山高等学校までご連絡下さい。

お願いばかりにて大変失礼いたしました。今後とも御支援並びに御協力をお願い申し上げます。

創立記念行事にて

校長
谷中 郁夫

同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

さて、例年本校では、創立記念日である十一月九日、または、その直前の土曜日に、創立記念校内マラソン大会を実施しております。そして、その開会式の中で、同窓会長様や校長が小山高校の創立に関わる話等をする中で、生徒たちに本校の歴史を振り返ってもらったり、本校を愛する気持ちを高めてもらったりしております。

ところが、昨年度は、台風十九号の大雨の影響で、スタート地点とゴール地点としてお借りしている小山中学校の校庭が、一面水に浸かり使用できなくなったことなどから、また今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、スタート時やコース内、特に給水ポイント付近での密集を避けることが困難であるということなどから、やむなく中止といたしました。

しかしながら、マラソン大会は中止となっても、創立を記念する行事は必要であると考え、昨年度はLHR時に、今年度は朝のSHRの後に、同窓会長様と校長と生徒会長の三名が、それぞれ創立にまつわる話をするという時間を設けました。今回私は、本校の校章にまつわる話をしたのですが、同窓生の皆様にもこの場をお借りして本校の校章に込められた意味を紹介したいと思ひます。

本校の校章は、第二次世界大戦後にできた新しい学校制度のもと、昭和二十三年（一九四八年）小山高校がスタートした頃

に、当時の生徒・職員の考案したデザインを福田十郎先生がまとめたものとされています。「栃の葉の中に小山と高校をあらわし、全校の協力一致により、地域はもちろん、国内外に活躍する職業人・社会人の育つことを祈念するものである」と、創立七十周年以降の各記念誌に書かれています。

また、創立五十周年における記念品として制作された校章のレリーフでは、「栃の葉」「小山」「高校」の三つのデザインが立体的に重なっています。五十周年記念誌を調べてみると、そこには帽章の説明として、「『栃の葉』は、栃木県立高校である」と農産と自然を表している。「『小山』は、小山市の略を弁化、『三つの重なり』は、協力一致、『八方開き』は、有無相通の商業と人生の生活を表している。」と記されていました。

つまり、「『栃の葉』と『小山』と『高校』の『三つの重なり』は『全校の協力一致』を表し、さらに、『『栃の葉』と『小山』の花びらが八つの方向に広がる『八方開き』には、生徒たちに、将来『地域はもちろん国内外で、各方面において活躍する職業人・社会人に育ってほしい』という願いが込められている、というわけです。

私もこれまで、校章に込められた願いにもあるように、「聡・直・剛」の指標と「文武両道」の校風のもと、社会に貢献できる有為な人材の育成を目指し、生徒の自己実現に向けたきめ細かな指導に努めてまいりました。そして、これからも、百年の歴史と伝統を受け継ぎ、次の百年に向かって、「地域に信頼される学校」「地域に選ばれる学校」を目指し、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。同窓会員の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



コロナを乗り越えて

PTA会長
植村 一

同窓会の皆さまにおかれましては、日頃から、本校PTA活動に対し、物心両面にわたりご支援、ご協力をいただき、紙面からはごさいますが心より感謝申し上げます。

さて、未だに収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の影響により、学校活動において多大な影響が生じています。PTA活動においても、恒例行事等を自粛

するなど、3密を避けなければならない制約の中、私たち本部役員一同、生徒たちのより良い教育環境づくりのために努力しているところであります。

今後もしばらくの間は、これらの学校活動においても、私たちは感染防止のため心身の健康に最大限に留意しつつ、新たな活動スタイルを模索しながら、この新型コロナウイルスと付き合っていかなければなりません。

このようなコロナ禍の中、今年4月、本校の卒業生が社長を務める企業が、マスク1万枚を小山市に寄贈されたという新聞報道を目にしました。私も本校卒業生の一人として、大変うれしく思いました。

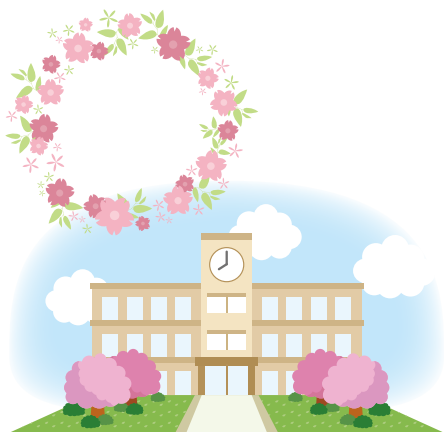
コロナ禍による影響は、経済的にも世界規模で甚大なダメージを与えています。国内においても、在宅ワークやリモートワー

クの浸透など、私たちの社会生活や社会経済の仕組みは、大きく変化しようとしています。ある意味では、本校の生徒たちは、コロナ禍以降の全く新しい社会を創造していく貴重な人材であると言えるのではないのでしょうか。

このような将来を期待される人材を育成していくためには、学校とPTA活動の連携強化はもちろんですが、何よりも、同窓会の皆さま方のご理解と支援活動の充実が大きな力になると思います。

これからも、皆さま方の母校愛が次世代を育てるということを心に留めていただくとともに、後輩たちを支援していく気運を高めていただき、一層のご協力を賜れば幸いです。

最後になりますが、小山高校PTAでは、本校の長い歴史と良き伝統を継承しつつ、有意義な活動を充実させ、同窓会の皆さま方とともにPTAも成長していきたいと考えておりますので、今後とも、皆様方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



活躍される同窓生



S.37年度卒業
清水カツ子

小山高校同窓会の皆様には日頃より小山高校の発展にご尽力くだされ深く感謝致しております。同窓会に女性の意向もという元石崎会長の発案で突然同窓会の役員という話があり平成14年から23年まで同窓会役員の末席に名を連ねさせていただきました。

何のお役にも立てなかった私ですが当時小山高校普通科は男子のみでしたが学科再編により平成18年度より男女共学になるということでした。平成16年の同窓会研修旅行の時同じような経緯を数年前に辿った福島県立安積高校に当時の野口豊校長先生共々訪問しました。安積高校は明治17年設立の歴史ある伝統校です。安積高校の校長先生、同窓会会長さん達に出席していただいて貴重なお話を伺いこちらからも質問して有意義な研修旅行だったと印象に残っています。

さて、私は遠い昔、昭和37年度商業科卒業です、女子のみ60名のクラスで教室に60名の机が教壇の目の前から後ろの壁までぎっしり並んだ状態でした。個性的な友人たちが多く中間、期末テストの間に商業科なので各種の検定試験があり、音楽部や演劇部を作る

うとしたり中身の濃い活気のある3年間を過ごしました。今でも多くの友人と交流が続いています。なかでも2年生の運動会の仮装行列の種目では小山の芸妓さんの組合から神輿を担ぐときのハッピをお借りして(当時小山の祇園祭で芸妓さんたちが専用のおみこしを担いでいました)江戸の町火消に扮し受け持ちの亀井先生にちなんだ60名が「か」組「め」組に分かれ火消し場面をはしごや縄を使って演じ、優勝したことを懐かしく思い出します。

この文を書くにあたり半世紀前の高校時代を思い出すと世の中が高度成長期に進んでいく入口あたりだったのかと。日本中が上昇志向で頑張っていた気がします。

商業科は廃科となり淋しい気もしますが小山高校は普通科になり文武両道のもと歴代の諸先生たちのご努力とご指導によって発展を続けています。

私の孫も小山高校の卒業生です、部活では剣道に励み高校総体にも出場し先生たちの熱心なご指導により現在大学3年生です。時代は違っても孫と小山高校の指標の「聡」「直」「剛」の話をすることがあります。

現在私は若い頃の趣味であった登山を50代半ばから再開し北は利尻岳から南は屋久島まで今も頑張っています。

結びになりましたが小山高校と同窓会が更に充実、発展されます事と共に皆様のご多幸を心からご祈念申し上げます。



S.55年度卒業
(株)ソウイング
代表取締役社長・会長
丹羽 政之

教職員・卒業生・在校生をはじめ小山高校に関わる皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。明るく開放的な校風のなか、伸びやかで多感な時期を過ごすことができた我が母校・小高の同窓会報誌にこうして寄稿できることを光栄に思います。

私は昭和55年に小高を卒業後、タイヤ卸売会社に就職、24歳の時に独立し、自らタイヤ・カー用品販売店を創業しました。時代はバブルの真只中、社会にも勢いがあり、私も若く血気盛んで「自分の力で生きていきたい」という思いを強くし、新たなステージへ飛び出したのです。今思えば若さゆえの無鉄砲さがあつたのだと思いますが、車に関する知識や周囲の協力もあつて、ここを原点として次なるステージへの道を切り拓いていくことになりました。それから2年後、小山市内にオートオークション会場が開設されたのを機に、構内作業請負業務を始めました。構内作業というのはオークションに出品される車両を商品車として仕上げる工程をはじめとするさまざまな作業です。未経験ではありましたが、一つ一つ真摯に向き合い、問題をクリアしていくことで信頼を勝ち取り、従業員の努力もあつて、事業を拡大していくことができました。

現在は構内作業サービスのほか、車両陸送サービスを展開し、小山だけで

なく、東日本を中心に関西・九州まで事業を展開しています。そして本年6月、西日本へのネットワークを強化すべく名古屋支店を開設、全国に2支店・3営業所・10出張所を構え、今後さらなる拡大を目指してお客様に満足していただけるサービスを提供していきます。

創業してから34年が経過しました。24歳で会社を辞め、突っ走ってきた私ですが、会社を運営していくために大切な行動力や決断力は、小高の自由な空気の中で培われたものでもあると思っています。今後も精力的に活動し、取引先の皆様や我が社の大切な従業員はもとより、日頃よりお世話になっている地域の皆様のお役に立てるよう、少しでも多く社会に貢献していきたいと思っています。

若い頃はお金を稼ぐため、我武者羅に一生懸命、働いていました。それが年を重ね、仕事を通じて多くの人々と関わっていくなかで、人から感謝される仕事があったという気持ちに変わりました。何事も思い通りに進むことばかりではありませんが、誰かに喜んでいただけるよう、笑顔で人と関わっていきけるよう、これからも尽力するつもりです。

最後となりますが、恩師・同級生・先輩・後輩、私が出会ったたくさんの方々に感謝したいと思っています。そして、小山高校のますますの発展と、未来を担う在校生の皆さんが豊かな学生生活を送れますことを心より願っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

活躍される同窓生



S.55年度卒業
ライフプラン株式会社
社長
大滝 治久

日頃より小山高等学校同窓会会長をはじめ会員の皆様、小山高等学校の発展にご尽力いただき誠にありがとうございます。今回、このようなお話をいただけたことを誠に光栄に思います。

私が、野木中学時代に野球部に所属していた頃から、高校に行っても野球をしたいという思いがありました。小山高校のことを知り、入学したいと思うことになったエピソードの中で、真っ先に思い出すのが、昭和五十一年中学三年生の年に、春の選抜高校野球で小山高校の準優勝、同年の夏にも甲子園で、高校生当時から注目選手だった巨人軍監督の原辰徳氏が率いる、神奈川県東海大相模高校を破った事を思い出します。小山高校へ入学して学業と部活動の両立がはじまり、部活動は中学生の時から念願の野球部へ入部しました。当時、人気の野球部では多くの新入部員の中で部活動がはじまり、毎日練習に励みました。練習の思い出の中の一つに先輩の「小山高校野球部後援会」増子浩司氏が当時の私達「新入部員指導係」だった事を思い出します。入部した年に夏の栃木県大会決勝で宇都宮学園に小山高校が優勢と思われていた試合が、最終回で逆転されて夢の甲子園への道が途絶え、悔しがつている先輩たちの姿を思い出します。夏の栃木県大会から間もなくしたころ、私の部活へ

の思いに変化がありました。自分は、身体が細く、スタミナ不足もあって、硬式球の打球に威力がない事に気づき、部員数も多い中でこのまま続けていく自信とモチベーションも下がり退部することを決断しました。その後は、商業科で資格取得などの為、勉強に専念し、高校生活を過ごし無事に卒業しました。

卒業後は、管材商社に入社し、営業担当として勤めていた頃、取引先の設備会社に「グループ会社設立、運営をしてみないか」という話を頂き、約二十四年間勤めていた会社を退職し、『ライフプラン株式会社水回りリフォーム専門店』に入社し、現在も会社経営にも携わりながら、お客様の生活スタイルに合わせた住環境づくりのお手伝いをさせて頂いておられます。地域に根ざした信頼される会社作りを目指していきたいと思っています。地域の方々と共に交流しながら活動させて頂き、社会に貢献していきたいとも思っています。昨今は、世界的に社会や経済などさまざまな面で大変な情勢の中、東京オリンピックが延期になってしまったり、高校野球も中止となってしまうとスポーツを頑張っている選手達、応援している人達、自分も含めて、日々の暮らしが今までは違っていたことに慣れることに少々大変さを感じながらの生活中で自分の高校生時代を思い起こすことで、懐かしさと、新しいことをチャレンジしていきたいと、これからの人生への活力になります。末筆ながら、小山高等学校ならびに皆様の更なるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



S.60年度卒業
同窓会理事
大星印刷株式会社
星野 賢一

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は市内若木町にて祖父の代より続く創業64年になる印刷業を営んでおります。主な得意先は小山市役所や市内の企業・商店です。私が小山高校に進学したのは単純に家から近いという理由で、特別深い考えもありませんでした。しかし、小山市で経営者となった現在の立場になってみると、小山高校の卒業生で良かったなと感じることがあります。小山高校が創立百有余年の伝統校なので取引先等にも同窓生が多く、お互いに小山高校出身だと分かれば親近感も湧き、会話もしやすくなります。

また私が体験したのは、東京の会社に就職した際に、上司や得意先の社長が「小山高校って野球が強いところだよな?」と栃木県の公立高校を知っていた事です。私は驚きと同時に嬉しくもあり、野球部が春の甲子園で準優勝した話や、原辰徳選手を擁する東海大相模高校を破った話、また大学生の頃に神宮球場へ観戦に行った時、試合前の練習を終えた広澤先輩とレオン・リ選手がたまたま通る所から、小山高校出身だと申し出たところ、ヤクルトタフマンを頂いた事などを得意気に語ったものです。

(私はバスケット部でしたが・・・)

高校時代の私はバスケット部に所属しておりました。部活動での思い出は、練習や大会の結果よりも夏休み中に紫峰寮で行われた合宿です。自炊し仲間と寝食を共にし、練習後は夜ともなると心肺機能強化の名の下に暗中小球大会を開催し、月明かりが照らすプールで大騒ぎをして各方面からご注意を頂いた事も懐かしい記憶です。

また私をリーダーにバスケット部の精鋭で「第2回全国高等学校クイズ選手権」にも出場しました。書類選考を通過し意気揚々と所沢球場に乗り込み受付を済ませると、早速第一問と第二問がセットで出題されており、第一問が『マイケルジャクソンのアルバム「スリラー」が収録されたカセットテープをホームベースから伸ばすとバックスクリーンを超える?』第二問が『日本で一番多い苗字は鈴木だが今日参加している選手の中で一番多いのも鈴木である?』という問題で私達は自信満々○×の解答者エリアの三塁側スタンドへ移動しました。程なく日本テレビ福岡アナウンサーが登場し「青春真つただ中、みんな燃えているかーっ!」の掛け声と球場内のマル!・バツ!の大合唱の中いよいよ正解の発表となり、答えは×と○であっけなく敗退となりました。

現在でも毎年バスケット部忘年会が有り高校時代の話で盛り上がりついています。昨年はコロナの影響で会も中止となりましたが、今年は再開できるようなコロナの早期収束を願うばかりです。

末筆ではございますが、小山高等学校の益々のご発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

コロナに負けず



生徒会長
今泉 翔太

私たち生徒一同は、創立百二年の伝統を誇る小山高校で、「聡・直・剛」の指標のもと、学習に部活動にと懸命に励んでいます。

通常の授業等に加えて、朝の学習や定期テスト前の放課後学習等の時間が確保されているので、生徒たちは日々、主体的に学習に取り組み、その成果として高い進学実績を達成してきました。

部活動では、全国大会にも出場する剣道部やウエイトリフティング部をはじめ、甲子園出場実績のある野球部等の十三の運動部と、吹奏楽部や美術部等の九つの文化部の他に、ダンス等の四つの同好会が、活動しています。小山高校では、ほとんどの生徒が部活動や同好会に所属して、活発に活動しています。体を鍛えたり、技術を磨いたりするだけでなく、強い精神力を身に付けることも目指しているのです。部活動での経験は、必ず自分の成長に繋がっていくと信じています。

そして、私たち生徒を支えて下さる本校の先生方は、熱心な先生ばかりです。質問をする、いつでも丁寧に説明してくださいます。相談にも真剣に耳を傾けてくださいます。また、進路についても、手厚いサポートをしてくださいます。このような先生方の熱心さも、小山高校の魅力の一つだと思います。

現在、新型コロナウイルス感染症が拡大

する厳しい状況下にあり、私たちは一年前には想像もできなかった生活を送っています。例えば、学習面では、休校により遅れた部分を取り戻すために、今まで以上に必死に授業を受けなければなりません。また、部活動では、三年生にとつて集大成となる夏の大会が中止になりました。自分達が思うように活動できず、悔しさや虚しさを感じることもありましたが、私たちが学校生活が無事に送れるように、先生方は様々な対応をしてくださり、同窓会・地域の皆様から多大なる支援を受けていることを実感しているので、心より感謝しています。

そのような中、昨年十月に私は生徒会長の任に就きました。感染症拡大の影響で、今期の生徒会活動は、従来とは異なる部分が多く、戸惑うことも多くありました。私は、自分が生徒会長として、学校のために出来ることは何かを考えました。そして、まず、マスク着用や手指の消毒を徹底してもらえよう呼びかけることだと考えました。日常生活の中でつい忘れがちになることがあるので、これからも注意喚起をしていきたいと思います。これは大変身近で基本的なことですが、全員が徹底することで、コロナウィルス感染症の拡大を防ぎ、健康で元気な学校生活を維持していけると思います。そして、感染症対策を万全にして、学校行事等を成功に導き、一つでも多くの思い出を自分たちで作っていったらと考えています。

また、コロナ禍において、大学受験や部活動の大会は、例年とは異なる形で実施されようとしています。そのような環境にあっても、小高生が良い結果を残せるよう、生徒会役員は全力でサポートをしていきたいと思っています。また、学校生活の中にも生徒の意見を良く聴き、生徒のためになる活動をしていきたいと思います。生徒一人一人が充実した学校生活を送り、進路を実現出来るよう、生徒会としても、生徒の

立場から出た意見を学校に伝える架け橋の役割を担っていきたいと考えています。そして、地域に愛され、中学生に、「文武両道の小山高校に行きたい」と思ってもらえるように、私達が小山高校の伝統と歴史を引き継いで、頑張っていきたいと思っています。日々、身近に迫ってくるコロナウィルス感染症にも負けない小山高校にするために、学校全体で協力していけるよう、生徒の代表として率先して行動し、尽力していきます。



令和元年度 栃木県立小山高等学校同窓会会計決算書

収入額 4,996,861円 支出額 2,924,931円 差引残額 2,071,930円

収入の部 (単位:円)					
科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要	
繰 越 金	2,610,842	2,610,842	0	前年度繰越金	
会 費	2,300,000	2,360,000	60,000	10,000円×236名	
雑 収 入	158	26,019	25,861	預金利息、懇親会残金	
合 計	4,911,000	4,996,861	85,861		

支出の部 (単位:円)					
科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要	
会 議 費	315,000	185,591	129,409	総会、役員会等	
通 信 運 搬 費	200,000	88,378	111,622	切手、はがき等	
印 刷 製 本 費	500,000	253,036	246,964	同窓会報印刷代	
卒 業 記 念 品	250,000	134,520	115,480	卒業記念品(証書ホルダー)	
旅 費	70,000	0	70,000	研修視察費用	
渉 外 費	85,000	20,000	65,000	対外的渉外費用	
支 部 助 成 費	30,000	30,000	0	清山会助成	
研 修 費	200,000	0	200,000	研修旅行	
入 会 式 費	60,000	13,329	46,671	入会式費用	
進 学 助 成 費	100,000	77,760	22,240	進路指導助成	
競技出場補助費	250,000	118,000	132,000	関東大会以上出場生徒助成金	
創立記念助成費	350,000	284,508	65,492	創立記念マラソン大会	
慶 弔 費	280,000	109,991	170,009	会員の慶弔、饗別	
教育活動補助費	300,000	268,712	31,288	教育活動のため物資等の購入	
事務補助費	150,000	140,000	10,000	事務補助	
積 立 金	1,200,000	1,200,000	0	特別事業費積立(周年事業等)	
予 備 費	571,000	1,106	569,894	アニバーサリーホールの維持管理	
合 計	4,911,000	2,924,931	1,986,069		

同窓会報発行に掛かる費用をご寄付いただいた皆様 ありがとうございます

(敬省略・順不同 令和三年一月五日現在)
今回皆様の温かく、心強い御支援を頂いたたまものと心から感謝いたしております。ここに、ご寄付くださった方々のご芳名を謹んでご報告申し上げます。

大塚 徹	川島 一夫	酒井 満	叶内 庄二朗
宇賀神 敏光	長 茂男	大橋 文男	丹羽 政之
渡辺 勉	島野 利治	諏訪 良作	赤荻 秀夫
大里 寿雄	川邊 憲一	大町 道代	池貝 将大
根本 俊寛	渡辺 政雄	臼井 健二	橋本 幸泰
篠田 富男	小森谷 鉄夫	百目鬼 正義	古山 房子
中村 友吉	青木 良子	小堀 順子	山中 利一
荒井 和夫	蒲田 直樹	飯野 佳昭	菱沼 英子
館野 茂男	蒲田 俊彦	北島 輝美	新井 シズ子
池上 和子	松本 俊雄	星野 敏和	福嶋 ヨシ子
針谷 久雄	新井 正之	三澤 和輝	中嶋 宏
内藤 孝子	山中 弘幸	須田 浩寿	渡辺 昌邦
速水 正	船渡川 進	鷺谷 尚	増山 和晃
岩崎 正一	小井田 雪雄	中島 今朝美	増山 昭子
藤沼 喜平	清水 カツ子	山本 宗良	櫻井 和裕
宮田 将美	坪野谷 忠平	塚原 きみ子	
高山 秀雄	南 謙治	小林 良勝	
野口 一夫	山川 大喜	須田 陽介	



同窓会報の発行を継続するために、今後ともよろしくお願いいたします。

小山高校 令和2年度 同窓会役員名簿 (R3.2.1)

役職	氏名
1 顧問	石崎 進
2 顧問 校長	谷中 郁夫
3 名誉会長	栗田 城
4 会長	船渡川 進
5 副会長	山本 幸男
6 副会長	滝沢 洋子
7 副会長	岩崎 晴一
8 副会長	小堀 順子
9 副会長	菱沼 英子
10 副会長 清山会	阿久津 宣明
11 副会長 教頭	谷 憲
12 副会長 教頭	近藤 康弘
13 会計	小林 敏明
14 会計	大橋 文男
15 会計	増子 浩司
16 会計 事務長	田熊 裕之
17 庶務	植村 一
18 庶務	赤荻 秀夫
19 庶務	渡辺 勉
20 監事	鈴木 良弘
21 監事	山中 利一
22 監事	秋山 静男
23 事務局	和久井 明
24 事務局	小藤 安正
25 事務局	津布樂 一樹
26 事務局	高森 輝和
27 事務局	赤石 知里
28 事務局	廻谷 真帆
29 事務局	室井 萌歩
30 事務局	坂井 梨恵

同窓会事務局から お知らせ

令和三(二〇二一)年度の同窓会総会
について

例年五月第三土曜日に開催してきた同窓会総会及び懇親会ですが、令和三年度については、このコロナ禍の状況を踏まえ中止いたします。

また、常任理事会は五月十五日(土)に開催を予定しています。詳細は後日お知らせします。

お願い①

前回の第三号より、「活躍される同窓生」というコーナーを設け、同窓生の近況や様々な情報を掲載し、小高同窓会報を年一回発行していきたいと考えております。寄稿していただける方がいらつしやいます。たら、自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

お願い②

小山高の歴史、過程や学科の変遷、部活動の栄光の記録など集積したアーカイブサークルが百周年を記念して本校に整備されました。展示していただけるものがありましたら、事務局までご連絡ください。

お願い③

「小山高百年誌」の在庫がございません。購入をご希望の方は、事務局までご連絡ください。



編集後記

「同窓会報第4号」無事発行することができました。新型コロナウイルスにより大変厳しい社会情勢のなかで寄稿いただいた方々はじめ、ご協力をいただいた多くの皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。編集の会合を持つのに学校の教室を使わせていただくため学校に迷惑をかけぬよう、感染予防には細心の注意を払いました。今年度は二年に一度行われている学校祭「聡輝祭」も中止になるなど学校・同窓会ともに例年行われている行事は、そのほとんどが中止や縮小となり特に生徒たちにとっては三年間という限られた時間での小高生としての活動が制限されてしまったことは残念でなりません。

会員の皆様の中にも多少なりとも影響を受けている方も少なくないと思います。膝をまじえて「あの時はたいへんだったね!」と語り合える日が一日も早く来ることを願っています。

小山高等学校同窓会事務局

〒323-1002

栃木県小山市若木町2-18-51
TEL 0285-12210236